



観光を活用した

持続可能なまちづくり

森 龍太 助教

Assistant Prof. Mori Ryuta

観光とまちづくり

2年次後期配当科目／専門部門(地域計画科目群)

現場の声から学ぶ、観光を活用した地域づくり

—「観光とまちづくり」の講義について教えてください。

2000年代初頭から、日本では観光が国家的な課題として重要視され、観光立国を推進する取り組みが進められてきました。この講義では、観光振興のあゆみや制度、各地のさまざまな事例をもとに、その特性や課題について解説します。**観光を活用した地域づくりやまちづくりを見つめる、長期的かつ持続的な視点を持ってほしい**と思います。

— 具体的には、どのような内容で講義を進めていますか。

今年度はゲストスピーチを6回行いました。名古屋市、白川村(岐阜)、氷見市(富山)の方には行政目線での観光まちづくりの話をしてもらい、また民間で観光まちづくりに取り組んでいる方、さらに、それら取材していた元新聞記者の方にもお願いしました。リアルな事例を直接聞くことは、**自身の視野が広がるのはもちろん、その地域に関心を持つ一歩目になる**と思います。座学だけではなく、実際の地域の課題に向き合い、地域ブランドの価値を考えてみるその経験から、「じゃあ、自分の居住地域や故郷はどう?」と思考や観察を広げることにもつながります。**目の前の課題に対して、観光をひとつのツールにしながら、**

常に自分ごととしてまちづくりについて考える力を身につけてほしいと思って講義を進めています。

観光まちづくりに学際的に取り組む力を

— 講義を進めていくうえで、工夫している点などがありますか。

議論を重ねながら最適解を見つけていく経験を積んでほしいという思いから、グループワークを多く取り入れています。学生からは「思いを言語化できるようになった」「考えを数分でまとめてアウトプットする力がついた」という声もありました。初回講義の冒頭に「観光まちづくりは誰が担うべきか?」という問いをした際、大半の学生が「市長や市職員、議員」と答えました。でも最終回の講義後のレポートで同じ問いを投げると「自分」という答えに変わっていました。これは講義で多くの知見を得たことでもあります、やはりゲストスピーカーの皆さんが多くの地域課題を自分ごととして語ってくださったことが大きいと思います。

観光やまちづくりは、特定の学問領域の知見のみでは成り立ちません。**さまざまな知見を持ち寄り、学際的に取り組むことで解決に向けて進んでいける**と思います。ぜひこの学部で、多くの学問に触れて成長してほしいと思います。



学生
にお
すす
め
の
一
冊

観光ブランドの教科書

岩崎邦彦 著(日本経済新聞出版)



従来の観光マーケティングは「来てください」という誘致型が主流でしたが、この本では「行ってみたい!」と客を引きつけるにはどうすべきかを、わかりやすく提示しています。観光におけるブランド構築をテーマに、引力のある地域の創造、持続可能な観光を考える一冊です。

学生の声

観光とまちづくりについて相互的に考えられるようになったこと、自分の地域に興味を持てたことが、大きな変化でした。ゲストスピーチでリアルな話をたくさん聞いたことも、とてもいい経験でした。森先生は全員のレポートにフィードバックをくださり、理解度に合わせて授業を進めてくれるので、とてもわかりやすかったです。

羽田野 美侑さん(2年生)

